

令和 6 年 9 月 13 日現在

機関番号：43605

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K18544

研究課題名（和文）知的障害児(者)における「内言」の可能性と新たなコミュニケーションモデルの検討

研究課題名（英文）possibility of "internal speech" and a new communication model in intellectual disabilities

研究代表者

大塚 美奈子 (OTSUKA, Minako)

上田女子短期大学・その他部局等・准教授

研究者番号：10884398

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 800,000円

研究成果の概要（和文）：中度・重度知的障害児(者)91名を対象に、筆談援助法にて書字した「言いたいこと」の内容を単語レベルで抽出しその特徴を分析した結果、共通して「仲間意識」と「障害受容」について考えていることが示唆された。いずれの障害種別においても抽出語の内容から「自分の考えや言いたいことはあるが、表出する段階でうまくいかない」という特徴があり、表出言語の少ない中度・重度の知的障害児(者)に「内言」がある可能性が推察された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、中度・重度の知的障害児(者)は、健常者と同等の会話をするのが難しいとされてきた。今回、中度・重度知的障害児(者)91名の言いたいことや自分の考えである「内言」を援助付きの書字により読み取り分析した結果、思考の特徴や障害特性についての内面的情報が得られ、自分の中に考えはあるが、表出する過程でのつまづきがあることが推察された。近年、自閉スペクトラム症（ASD）の当事者研究により、内面的情報が得られ支援に重要な役割を果たしているが、ほぼ知的障害のないタイプであり、知的障害のあるASD児(者)の内面情報を得られたことは個に寄り添う支援やQOLの向上にとって意味のあることだと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to examine the possibility that moderately and severely intellectual disabilities children and persons have "internal speech". The contents of what I want to say "written by facilitated communication was examined using quantitative text analysis. The results of the analysis of the extracted words of 91 children and persons with moderate to severe intellectual disabilities suggested that they were thinking about "companionship" and "disability acceptance" in common. A common characteristic was that they wanted to say, but did not well when expressing them verbally. It was suggested that moderately and severely intellectual disabilities children and persons have "internal speech".

研究分野：特別支援教育

キーワード：内言 中度・重度知的障害 筆談援助法 障害特性 内面的情報 自閉スペクトラム症 言語表出過程

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまでの国内外の研究では、知的障害を伴う自閉症・ダウン症・肢体不自由児(者)等へのアプローチは表出言語レベルに合わせた学習内容の検討、AAC(代替コミュニケーション)による教育支援やその支援方法の研究が主となってきた。しかし、近年、当事者研究が進み、会話のできない重度の自閉症者が50音表によって「内言」を文章化し、作家として自閉症の抱える内面や行動の理由など貴重な情報を提供し、自閉症への理解や支援へ多くの示唆を与えている(東田, 2014)。研究代表者は、これまで知的障害、自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症(ADHD)、学習障害(LD)等の発達障害を中心にその困り感や支援方法について研究を進めてきた。柴田(2011)が重度の知的障害者とのコミュニケーション手段を研究する中で、指筆談という手法を用いて言葉の表出を援助していることを知り、筆者は、これまで口に出して言う「外言」が難しい重度知的障害者の場合は、ほとんど言及されてこなかった「内言(頭の中の言語による思考)」について着目した。予備調査を行った結果、有意味語の使用がない重度知的障害者であっても健常者と同等レベルの「内言」を有する可能性が考えられた(2022, 大塚)。そこで、「内言」の表出化により障害児(者)の内面(意思・考え)を直接知ることによってSST等の訓練的なアプローチからより対象者の内面に寄り添った支援を行うことができるのではないかと考え、「内言」という新たな視点から本研究を推進していく。

2. 研究の目的

本研究の目的は、これまで表出言語によるコミュニケーションが難しいとされていた重度知的障害児(者)が、健常者と同等レベルの「内言(頭の中での言語による思考)」を有している可能性について、指筆談(柴田, 2011)という手法により表出化された言葉进行分析することを通して検討することである。研究計画に沿い、(1)指筆談による知的障害児(者)の「内言」を記録し個別にテキストデータ化する。(2)KHcoder(樋口, 2014)を用いてテキスト分析し、「内言」の特徴分析及び、自閉スペクトラム症、知的障害、肢体不自由等の障害種別における「内言」の特徴を検討。(3)研究成果について論文や学会発表、研修会等を開催し社会に還元していく。

3. 研究の方法

本研究では、前述の目的を達成するために研究期間内に以下の内容を実施した。

- (1) 自閉スペクトラム症・ダウン症・肢体不自由等を含む中度以上の知的障害児(者)で、研究協力を了承した者を対象とし指筆談を行い、対象者が語った言葉を記録・収集する。
- (2) 全対象者の内言の記録を記入した個別word文書を作成、全Word文書をテキストデータ化する。2年間で70名分の記録をテキストデータ化し、抽出語の処理を行う。
- (3) KHcoderを使用し「内言」における頻出度の高い抽出語を分析し、抽出語の共起関係の探索を行い、障害種別の共通テーマや傾向を検討する。特に障害特性や内面の分析はKWICコンコーダンス(KWIC)を用いて語の文脈から検討する。
- (4) 対象者やその家族を含め、広く学会や論文を通して研究成果を公表するとともに、個の意思に寄り添った支援を行う事例研究へと進めていく。

4. 研究成果

(1) 対象

指筆談学習会に参加した知的障害児(者)で療育手帳A取得の76名と療育手帳Bを取得の15名、計91名(男性45名、女性46名)を対象とした。生活年齢の範囲は、5~58歳で平均年齢は 20.75 ± 11.80 歳であった。内訳は、10歳以下20名、10代21名、20代33名、30代7名、40代6名、50代2名であった。障害種別は、知的能力障害(以下ID)18名、脳性まひ(以下CP)13名、自閉スペクトラム症(42名以下ASD)ダウン症18名である。

(2) 手続きと倫理的配慮

202X年8月から202X年+2年6月の期間に、公民館や施設等で指筆談学習会を8回行い、参加した対象児(者)91名に各10分~15分程度の指筆談を行った。書字表出援助者(以下、援助者)は4名で、援助者A:指筆談を研究する大学教員、B:障害児個別支援を行う指導員、C:指筆談を利用し障害児を育てた母親、D:障害児個別支援を行う支援員に依頼した。いずれも指筆談を支援に用い、実践期間は5年以上である。本研究に際して、上田女子短期大学研究倫理委員会の承認を得た(承認番号2021-2)。指筆談学習会に参加した対象者やその家族には、事前に書面にて研究概要を説明し、書面にて同意を得た上で参加することとした。感覚過敏がある場合には、指筆談を短時間で行う、ペンと紙で行う、薄い手袋を着用するなどの対応や心身の不調の場合は、中断し次の機会に指筆談を行うなどが可能であることを伝えた。

(3) 分析方法

録画データを再生し、一字一句聞き取った通りに書き起こした。個人情報特定されるような単語や名詞などは省略や匿名化し、意味不明の語句や文は除外した。91名分の逐語録をまとめた全テキストデータをKHcoder(Ver.3.0)で分析し、全テキストデータより150語の頻出語彙

を抽出し頻度表の作成を行った。抽出語を対象にサブグラフ法により抽出語の出現パターンの似通った語(共起の程度が強い語)を線で結んだ共起ネットワーク図を作成した。ネットワーク図から共通して語られていると考えられるテーマや語について検討した。次に、抽出語と障害種別による対応分析を行い、特に障害特性や内面に関わる語については単語前後の文をKWICを用いて文脈や内容の観点から確認し、各障害間における言いたいことの特徴を検討した。

(4) 結果の抜粋

「内言」における抽出語の分類とカテゴリーの特徴

全指筆談内容における総抽出語(出現した全ての語の延べ数)は94,665語、抽出語(語の種類を示す数)は25,036語であった。この中から助詞や助動詞、人名、固有名詞、組織名等を省き、2,171語を抽出語として使用した。この中から、出現頻度の高い語を対象に共起関係を上位60に設定してサブグラフ検出法により作成した全テキストデータによる共起ネットワーク図を作成した(図1)。4語以上から構成される4つのカテゴリーについて語の関連性からテーマをつけた。各カテゴリーの中心的な語のKWICからそれぞれの語の文脈を探り、テーマの特徴を表す指筆談内容の一部を抜粋した(表1)。カテゴリーに「生きる」「障害」「意味」「世の中」など10の抽出語が見られた。これらの語と表2「-早く世の中が理解すれば障害の重い人も生きる意味って何だろうってなどという間違っただけはなくなっていくに違いないと思う。僕も頑張ってる生きていこうと思います。」等からカテゴリーを【障害者として生きる意味】とした。

カテゴリーは、「人」「言う」「心」「大切」「考える」など11の抽出語で形成されていた。これらの語と表1「-その人たちの心のような人を私たちはもっときちんと大事にしていかなければいけないと思います。」等からカテゴリーを【人の心にとって大切なこと】とした。カテゴリーは、「ダウン症」「生まれる」「子供」「仲間」など7の抽出語から形成されていた。表1「なんだか、ダウン症の子供を産んだのは悪いことであるかのように言う人までいて、『今はもう検査があるのだから生まれるはずなのにねえ。どうしたのかしら。』などと言う人まで現れると、まるでお母さんが悪いことをしたかのように言われてしまいます。」等からカテゴリーを【ダウン症として生まれた仲間】とした。図1のカテゴリーは、「話」「聞く」「言葉」「話す」など7の抽出語で形成されていた。表1「私が何か一生懸命話すことで世の中が変わる気がするので私は一生懸命話そうと思います。」「いろんな人の話をじっくりと聞かせていただきたいと思うので、よろしく願います。」等から、カテゴリーを【話を聞く、言葉を話す】とした。

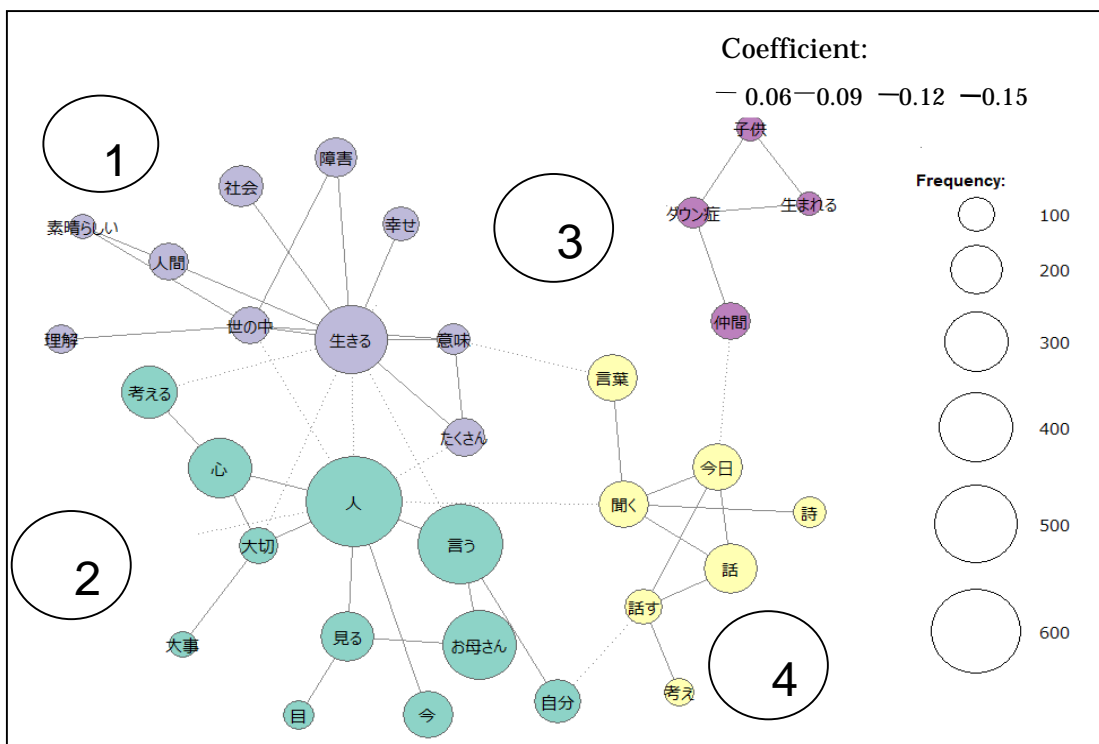


図1 言いたいことの共起ネットワーク(~ はカテゴリー・円の大きさは出現回数を示す)

障害種別における「内言」の分析と特徴

図2 に対応分析から見た障害種別の特徴を示す。寄与率の高い成分1の位置関係からIDとCPの抽出語は類似性が高く、ASDとダウン症の抽出語はやや異なっていると解釈した。

表1 言いたいことのテーマに関連する指筆談内容（一部抜粋）

カテゴリー	指筆談内容(一部抜粋)
	<p>・全ての人が受け入れられる社会であれば、誰も障害って言われても大丈夫だし、障害っていう必要もないかもしれないし、「みんなちゃんと幸せに生きられるよ」ということを社会はもっと考えなくてはいけないうのに、障害があると命に価値をつけられてしまうというのではみんな怯えて生きなくてはいけないうことになります。(ASD 11age)</p> <p>・みんなちゃんとしたことばを持っていてその言葉できちんと考えているんだと言うことを早く世の中が理解すれば障害の重い人も生きる意味って何だろうってなどという間違っただけの問いはなくなっていくに違いないと思う。僕も頑張って生きていこうと思います。(ASD 13age)</p>
【障害者として生きる意味】	<p>・豊かな言葉を持ち、豊かな思いを持ち、豊かな人生を生きていた人たちは犯人は勘違いして殺してしまいました(相模原事件)というのが本当の事実なのだから。(ID 57age)</p> <p>・僕は、自分では何にひとつできない、結構重い障害ではありますが、それでもたくさん生きる意味を日々感じながら生きていますので「そのことをしっかりと理解してもらわないと世の中はその間違いから目覚められないのかな。」と思っています。(CP 40age)</p> <p>・まとまってない意見を言ってしまったが、やはり生きる意味というのはとっても大事なことで一生懸命今考えているということです。(ASD28age)</p> <p>・特に最近はずいぶん発達障害だと言ってその子大丈夫なんじゃないという子まで発達障害にされちゃうんで、私は確かに20%しか伝わらないから、言われても仕方がないけれどもその子はただ単に先生が嫌いなだけじゃないのという感じで本当に嫌だなあと感じます。私は20%分ハンディはあると思うけど、それだって障害って言われなきゃならないのかなあとも思っている。(ASD10age)</p>
【人の心にとって大切なこと】	<p>・私を見て私を大切にしてくれた人は今までもたくさんいたのですが、その人たちの心のような人を私たちはもっときちんと大事にしていかなければいけないと思います。こんな時こそ一番大切なものは何かを私たちがよく知っているのだからそういう大切なことを改めて自分たちの言葉で言いたいと思っています。(ID38age)</p> <p>・どうしても母さんにはちゃんと伝えておきたいことがあります。それはここまで育ててくれてありがとうございましたと言うことです。(ASD34age)</p> <p>・全ての人が美しい心を持っているとやっぱり社会は救われるのでそういう方向に社会がむかえば良いと思っています。(ID 54age)</p>
【ダウン症の仲間】	<p>・ダウン症の仲間が幸せに生きられる社会は、全ての人が幸せに生きられる社会だということをもう一回改めて考え直したいと思ったり、コロナの今だからこそ改めて命とは何かを考える時に障害のある人の命もまた同じ命として振り返ってもらえれば良いと思っています。(ASD 33age)</p> <p>・ダウン症の心は人々の幸せを願う心で満ちています。(ダウン症 12age)</p> <p>・なんだか、ダウン症の子供を産んだのは悪いことであるかのように言う人までいて、「今はもう検査があるのだから生まれるはずないのにねえ。どうしたのかしら。」などと言う人まで現れると、まるでお母さんが悪いことをしたかのように言われてしまいます。(ダウン症18age)</p>
【話を聞く、言葉を話す】	<p>・今日は本当に話を聞きに来ていただいたという感じが強いので、この後もいろんな人の話をじっくりと聞かせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。(CP40age)</p> <p>・ぼくも先輩の話は大好きです。だってこれから僕がどんなふう生きていくのか、どんなふう乗り越えていくのか心配ですが、そんなことを乗り越えてきた先輩の言葉に僕はとっても励まされるような気がするのでも聞いてみたいのです。(ASD13age)</p> <p>・私が何か一生懸命話すことで世の中が変わる気がするのでも私は一生懸命話そうと思います。(ダウン症38age)</p>

ASD:自閉スペクトラム症 CP:脳性まひ ID:知的能力障害(年齢)

ダウン症を特徴づける語として、原点から離れた位置に「子供」「悲しい」「見る」「ダウン症」などがある。「内言」抜粋文から「出生前診断についての悲しい気持ち」や「ダウン症の子供は人の気持ちに敏感であること」等が語られていた。ASDを特徴づける語として「話す」「母」「考える」「社会」「意味」などが認められた。抜粋文の「-話すのはやっぱり大変なことで話す前に考えていたことが上手く言葉にはなっていきません。だって最初はちゃんとしていたものが心の中にあるのにそれを口から出すとどんどん少なくなっていくのでとっても困っていますが、指で書くとどうして消えていかないのでしょうか。」等からASDの特性である表出コミュニケーションの困難さに関わる内容や心の中に考えがあることが語られていた。IDを特徴づける語として「差別」が布置され、抜粋文では「障害は差別を生んでしまうので差別は人に不幸をもたらしてしまうので、やはり差別のない世の中を早くつくってほしいなと思っていますが、そのためにも僕たちはちゃんと僕たちの障害をしっかりと社会の中で表現する必要があるのかと思います。」等から障害による差別をなくすことが語られていた。CPを特徴づける語として「障害」「仲間」が布置され、抜粋文から「同じ知的な障害があるとされる仲間がしっかりと団結して、世の中に『みんな間違っているよ。見てごらんささい。僕たちは本当はこんなに深く物事を考えて生きていますから、そこをしっかりと考え直して、もう一度優しい社会を作り直そうじゃありませんか。』というのが僕の主張になります。」や「私たちの仲間には早いうちに亡くなってしまった人達がいるのですがそのことも付け加えていきたいと思っています。多くの人たちはまるでその命が存在しなかったかのような扱いを受けてしまいます。」等、CPの人の特性とも捉えられる短命のことについて取り上げられていた。

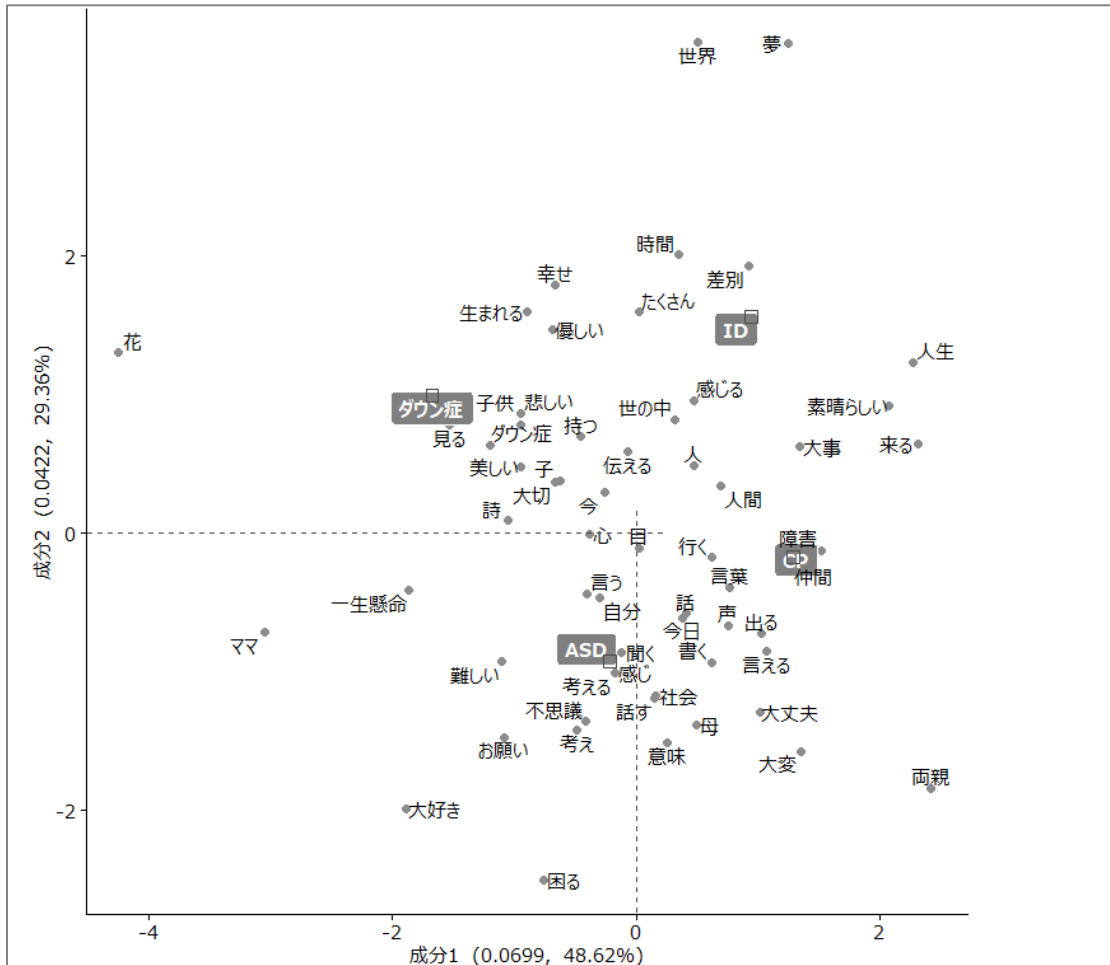


図2 対応分析から見る障害種別の特徴

(5) 「内言」における思考内容に共通する特徴と障害別の特徴のまとめ

「内言」の分類による4つのテーマに共通しているのは、「仲間意識」と「障害受容」であった。文中に「私たち」「自分たち」などの2人称が使われており、「仲間」という語も抽出語の上位にあり、「仲間の言葉」という表現が見られることなどから、指筆談学習会に参加していた障害のある他の人や社会で生活する障害児(者)の存在を意識し話したり、聞いたりしていることが推察された。指筆談では「言葉」「考え」「考える」「理解」等の語が複数のカテゴリー内に認められたことから、普段は表出がないが「内言」として思考している可能性が考えられる。失語症や高次脳機能障害等の脳の損傷した人は、考えや思想を外部に発表したり、身体で表現したりできなくなることがある。しかし、それは機能における障害であって実際は考える力や意志を全く失ったわけではないと考えられており、中度・重度知的障害児(者)にも同様のケースがある可能性が示唆された。

障害種別の中で、IDとCPは指筆談からの抽出語の内容に類似性がみられたが、IDを特徴づける抽出語「差別」について「内言」の抜粋文からは、「見た目には障害があるとわかることから差別的な目を向けられる」という背景が推察される。CPについても車いすで移動・生活している対象者が多いことから外見で差別を受けるIDと同様の傾向があると考えられる。差別は、人に不幸をもたらすため、差別のない世界を求めると同時に一方で、優しい心・差別のない目で声をかけてくれる人がいることに支えられていることについても言及している。このことは、前述したようにソーシャルインクルージョンの考え方を支持する方向と考えられる。

ダウン症の出生前診断について当事者が考えを発信する機会は少なく、本研究において指筆談による書字ではあるが、出生前診断についてダウン症者からの考えを知ることができたことは、1つの示唆を与える内的な情報提供であったと考えられる。ASDは、ID・CP・ダウン症とは異なる抽出語の内容であったことの要因の1つとして外見が一見ただけで障害があると分かりにくいことが考えられる。しかし、ASDを特徴づける語「話す」「聞く」「考える」「社会」「言う」などのある抜粋文によれば「考えてはいるが言葉がうまく出てこないこと、考えているのにうまく伝えられないこと、考えていることと違う言葉が口から出ること」等言葉があるのに表出しにくいという点、発話と書字に違いがある点が共通していると推察される。これは、今後の知的障害を伴うASDの支援につながる示唆ではないかと考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 大塚美奈子	4. 巻 47
2. 論文標題 知的障害児(者)の「内言」における思考の特徴についての検討：筆談援助法による「言いたいこと」の分析から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 上田女子短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大塚美奈子	4. 巻 3
2. 論文標題 思春期ASD女子の意思に添う支援とQOLの向上：指筆談をきっかけとした母親の意識変容から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 上田女子短期大学学術研究所所報	6. 最初と最後の頁 64-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大塚美奈子
2. 発表標題 知的障害を伴う自閉スペクトラム症生徒への筆談援助法を用いた支援：本人の希望する支援の実施と半年後の自己評価に着目して
3. 学会等名 日本学校心理学会23回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大塚美奈子
2. 発表標題 知的障害のある自閉スペクトラム症当事者の言いたいこと：発語・話レベルからみた思考の特徴に関する予備的検討
3. 学会等名 日本特殊教育学会第62回大会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	柴田 保之 (SHIBATA YASUYUKI)		
研究協力者	駒井 奈々 (KOMAI NANA)		
研究協力者	阿部 清子 (ABE KIYOKO)		
研究協力者	西津 里子 (NISHIZU SATOKO)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------